



J R 連合

ジャスティス

JUSTICE

コンセプト

自らを変える!! 明日を創る!!
イースト イノベーション!!

ジェイアール・イーストユニオン

発行責任者 菅野一位
編集責任者 瀬戸信作

〒105-0021
東京都港区東新橋2-8-28
TEL (J R) 057-7333
TEL (NTT) 03-6452-9687

ホームページ検索
「J R E ユニオン」

スローガン (案)

民主的労働運動を次代に引き継ぐため、
ビッグイノベーションを巻き起こし
全力をもって組織拡大に邁進しよう!

サブスローガン

1. 安全最優先の職場風土の深度化を図り、JR連合「安全指針」を軸に「すべてのJR関係労働者の死亡事故・重大労災ゼロ」を達成しよう!
2. 地域への貢献と、社会からの信頼獲得のため、労働組合としての責任をもって、人材育成・技術継承問題を克服し、安全・安心なJR東日本を築きあげよう!
3. イーストイノベーションで、組織拡大を成し遂げ、JR連合10万人をめざし「あるべき労働組合像・労使関係像」を実現するため、民主化闘争を完遂しよう!
4. 「働くことを軸とした安心社会」を構築し、労働者の尊厳を守るとともに、労働条件の維持・向上を成し遂げよう!

第5回 定期大会・運動方針 (案)

職場討議資料 (要旨)

J R E ユニオンは平成29年7月10日、東京において第5回定期大会を開催する。
J R が発足して30年を迎えたが、国鉄改革時の諸問題と現在の抱える諸問題は時代の流れと共にJ R 各社毎が抱える問題は違えども諸問題の根底にある鉄道の復権と地域密着は切り離せない問題である。
J R 東日本の将来を担えるのは私たちであるとの自負を更に固め、真面目に働く者が正當に報われるように連合方針やJ R 連合方針を加味しながら、安全問題、組織拡大、民主化闘争勝利、労働条件の維持・向上等に向けて取り組みを強化していく。
定期大会成功に向けて全組合員の討議を要請する。



平成29年7月9日 第4回定期大会「団結ガンバロー」

はじめに

2017年J R 発足30年を迎えました。振り返れば国鉄改革時「残るも地獄、さるも地獄」と、新しい会社に対して将来の夢や希望を見いだせず、不安ばかりの船出であつたと思います。社員が頑張りと世の中の好景に支えられ、初年度から黒字経営となり順調に業績を伸ばし、この間リーマンショックや東日本大震災を乗り越え単体・連結決算共に過去最高となつていきます。労働組合はJ

R 発足5年後に非民主的組織運営によるスト権委譲問題が提起され、革マル派が浸透していると指摘され、J R 総連から決別し民主的労働運動を目指しJ R 連合が誕生しました。東日本の中に民主的労働運動への動きがありましたが、当時の状況や東労組の度重なる嫌がらせなどから職場ではもの言えず、東労組でなければ人にあらずの雰囲気がありました。しかし三鷹電車区事件、浦和電車区事件、松戸車掌区事件など次々に勝利し、私たちの組織数は伸びないものの、現在の一見平穩そうな職場があるのだと思えます。しかしJ R 総連改革マル派浸透問題は事あるごとに取り上げられ、国家的治安課題として認識されていると思つても過言ではないと思つます。
国鉄が倒産したのはスト権スト、生産性向上反対、近代化合理化反対と闘争に明け暮れたことで、運賃値上げが毎年のように行なわれ、職員の対応は最悪、電車の混雑も解消されるべくもなく、経営陣は権利の主張ばかりする労働組合への対応に窮々とし利用者である国民の皆さまの姿は映っていません。2017春闘でJ R 総連東労組は「スト権を確立してたたかう」とし、全職場での一票投票が行われ、その賛同率は80%を超えたと聞きます。もちろんスト権を頭から否定するものではありません。しかしJ R 東労組は「21世紀労使共同宣言」を発表し「平和裡かつ自主的に労使間の真摯、率直な話し合いにおいて解決を図る」と約束しているにも関わらず、組合側はスト権をバックに交渉を進めるのは普通の感覚ではないのだと感じています。
これから30年を見据えた中で、企業は変革を求め、時代即ち業務執行体制の構築を目指してはいますが、はたして働く側の意識改革は進んでいるのかと疑問を抱かざるをえません。今こそイーストイノベーションが必要だと感じます。労政転換による革マル派放逐を、国民から信頼を得られるJ R 東日本を、真の国鉄改革を成し遂げなければならぬと思えます。国鉄改革30年国民

組織拡大の成果を全体で確認し 更なる組織拡大に繋げよう！

- ・平成28年11月14日
仙台地本設備系職場に於いて東労組から組織拡大、ミドル社員
- ・平成29年1月6日
横浜地本営業系職場に於いて未加入から組織拡大、シニア社員

運動の基調

JR東日本においては、この間の民主化闘争の前進により、職場規律の是

の皆さまから応援いただき、現在があることを忘れてはいけません。私たちは多くの困難を乗り越え、未来に向かい、これからのJR東日本を次代につないでいくには、これまでも「万里一空」目標を見失うことなく、やるべきことを見失わず一年間を振り返るとともに、この一年間にかける思いを全組合員で共有し、平成29年度運動方針について真摯な討論を要請します。

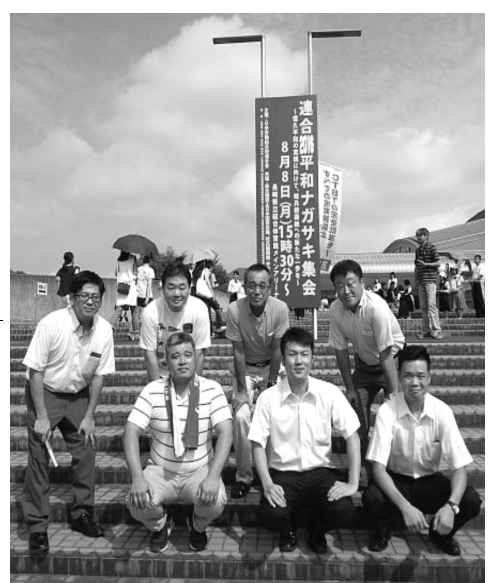
正が進み、JR東日本は、JR東労組に対して是非の姿勢を強めていきます。私たちの目指す「笑顔が競えあえる職場」にするためには組合員が主役でなければなりません。今一度原点に立ち返り、マル浸透問題、その危険性を訴えていかなければなりません。東労組に属しながらその方向性に疑問を持つ組合員が数多くいます。その疑問を是非行動として表していただきたい。どのような形でもいいから疑問を口に出演してもらいたい。東労組役員に言うのは恐ろしいと感じるならば、我々にその声を届けて欲しい。私たちの窓はいつでも開いています。全国8万名の仲間と共に日本の鉄道を、国民の足として安心して利用できるJRを築いていくにはありませんか。私たちの運動は、本当の社会正義の闘いです。健全な企業には、健全な社員による健全な労働組合が必要です。自由にして民主的な労働運動を、JR東日本の中に根付かせ本場に働きやすい職場を創っていきましょ。我々も声に耳を傾け

る運動を展開していきま。安全の確立はすべてのJR労働者にとって必要不可欠です。安全の最高責任者は会社ですが、安全の取り組みについては労働者の共通課題です。重大インシデントについては労使ともに汗をかき真摯に協議し、今後同じことを繰り返さないことが重要です。しかし、繰り返し発生する事象が減らないのはなぜでしょう。「まさか自分が、まさかこんなことがあるわけが」などどこかで他人事になっているのではないのでしょうか。ヒューマンエラーは誰にでも起きる、しかしそれを極限まで抑えることができるのは一人ひとりの強い意識と責任が重要であると思えます。会社は現場の意見に耳を傾け真摯に応えなければなりません。労使一体となった取り組みが安全には必要不可欠です。また、多発する自然災害による鉄道被災への対応も怠ってはいけません。現場での課題に真摯に向き合い、考え、意見を自由闊達に言える職場があつてこそ安全の確立が成し遂げられると思います。

すべての組合員が真剣に安全の確立を目指します。組合結成以来の懸案事項として、情報発信力不足があります。組合員がそれぞれ会社で責任ある仕事につき安全に業務をこなしながら、組合活動を精力的に取り組み、なおかつ組織拡大に奮闘している。この頑張りを知ってもらうためには情報発信が不可欠です。安全の確立、組織拡大による民主化闘争完遂、業務課題、待遇改善、「三連合の進める政策課題の実現、社会的貢献、数多くの課題を組合員それぞれが精いっぱい活動し、一つでも多く解決できるよう奮闘していきましょ。JR連合運動のウイングを広げ前に進めていきましょ。エルダー組合員の働き方の提案がありました。我々組合員は目前に迫った問題であると思えます。前述のように課題、宿題は山積です。しかし我々の第一課題は組織拡大であると思えます。一つひとつの運動をそれとリンクさせながら全組合員で英知を結集し諸課題に取り組んでいきましょ。

安全の確立に向けた取り組み

「安全は輸送業務の最大の使命である」会社の安全綱領であり、鉄道事業の根幹です。安全最優先の職場風土を構築し安全を確立するためには、労使の垣根を越えて同じ目線で取り組まなければなりません。何故ヒューマンエラーに起因している重大インシデントが多発しているのか、何処に問題・原因があるのか、第一線で働いている人間が一番肌身で感じているのではないでしうか。遅々として進まない「技術継承・人材育成」の問題、そこには会社側と現場で働く社員との大



連合2016平和行動in長崎 H29. 8/8

きな認識の違い、隔たりがあるものと思います。私たちが提起した「教育・訓練のありかた」は、組合員の意見を集約し、考え、議論し策定したものであります。これをもとに会社に提言をし、粘り強く交渉していき、「本当に真面目に考え、行動しているのはどこなんだ！」ということを内外に知らしめていきます。JR連合は、働く者の生命・安全を守れずして、利用者の生命・安全を守ることは出来ないと言ふ観点から、すべてのJR関係労働者の「死亡事故・重大労災ゼロ」完遂のため運動を展開しています。これからもJR連合の「安全対策委員会」「安

全シンポジウム」「安全
ディスカッション」など
の会議や集会に積極的に
参加をし、「安全の確立」
に向け取り組んでいきま
す。

民主化闘争・組織

強化拡大の取り組み

労働運動への信頼と結
びつき、会社内での一定
の影響力を格段に強化す
ることによって、要求実
現と組織拡大強化の好循

平成29年度 大会代議員

【関東】

・大和田義雄・中村明
・高橋佳昌・佐藤定司
・和知利昭

【仙台】

・水間 勉・鈴木義一
・添田寿男・小林俊一
・関根隆文・斎藤勝彦
・橋本康男・大塚俊彦
・青田節雄

【新潟】

・神田広栄・瀬藤正樹
・金田友稔・高木義憲
・鈴木雅明・高橋基逸
・南雲春彦・黒井哲夫
・渡辺博幸・渡辺敏昭
・日水 浩・高橋洋一

【特別代議員】

・大泉浩康(管理部会)
・船山勝広(設備部会)
・板窪吉則(営業部会)
・日光 忠(運輸部会)

環、相乗効果を創り出し
ていきます。

あらためて組織の基礎
を見つめ直し、全組合員
参加型の活動で日常活動
を活性化し、組合員参加
型の組織拡大強化を前進
させすべての組織で連続
的な純増を実現し、具体
的数値目標を達成する取
り組みを強化します。

会社の正常化を求める
仲間や青年・女性などあ
らゆる階層の労働者を視
野に、「目に見える」運
動を強化・発展させ、旺
盛な「総対話」運動の展
開などによって「7つの
包囲網作戦」を強化する
と共に組織拡大を実現し
ます。

JR退職後の安心・安
定社会を構築し、生き甲
斐のある社会を創造する
と共にいつまでも仲間と
絆の輪を一層大きなもの
とするための運動の創造
に寄与します。

青年・女性のなかでの
組織拡大を重視した運動
を展開していきます。ま
た、拡大目標の中で青年・
女性分野の拡大目標を各
組織独自に位置づける、
若年層・女性分野独自の
要求を追及するなど工夫
した運動を構築していき
ます。次世代育成対策の

・ あれから30年、これからの30年。

・ 「鉄道の復権、地域密着」は大
きなテーマ。

・ 株主様も大切だが、社員も大切、
国民の負託に応えることも大切。

・ まずは国鉄改革の残滓、過激派
革マル問題の解決。

一環として、初級教育制
度の円滑な継続をはじめ、
教育制度を引き続き充実
させていきます。

2018春季生

活闘争に向けて

17イースト春闘は、要
求額には及ばなかったも
の、最大の目標として
掲げた「4年連続のベア
獲得」を達成することが
できました。この間、春
闘勝利に向けた全組合員
の取組みと、JR連合加
盟各単組の連帯のもとで
各地方における共闘に、
まさに奮闘していただい
た組合員の皆さまに感謝
いたします。

今次春闘においては、
回答に至る経過などの問
題について、見過ごすこ
とができない重大な事案
としてとらえ、申第7号
のもとで整理し、交渉の

あり方という基本を確認
したうえで、今後の労使
双方の考え方を改めて明
確化しました。また、連
合の基本方針に則したJ
R連合春闘を踏まえた申
し入れの内容・方法につい
ては、要求の2%の切身
でもある「諸労働条件の
改善」、「夏季手当要求」
について、他のJR各社
では、月例賃金の改善を
はかるための労働条件交
渉を春闘として実施して
いるものであり、その点
についても、今後の対処
改善をあらためて求めて
いかなければなりません。

18春闘に向けては、こ
うした課題を踏まえ、さ
らに目標を明確にしなが
らJR東日本における春
闘をより充実化させ、J
Rグループのリーダー役
を担えるべく、労働組合
としての役割をもって、

まず、職場規律の改善から…



産別を代表する立場での
取り組みを重ねていきま
す。

当社を取り巻く 情勢等を踏まえた交渉

① 新幹線大規模改修引
当金が今後経営に及ぼす
影響について、2017

年3月期決算では、新幹
線大規模改修引当金を2
40億円計上。営業費用
が増加するため、営業利
益と経常利益を引き下げ
るが、災害損失引当金の
繰入れの反動と繰延税金
資産の取崩しの反動によ
り、当期純利益は大幅な

増益となり、2,779億円となった。

② 労働契約法改正、いわゆる2018年問題、JR東日本(本体)には、エルダー雇用制度、契約社員(GS)制度があります。何れも契約期間を5年間としており、5年を超える契約はありません。エルダー雇用も本体で5年雇用後はTSSエルダー(東北エリア駅業務の場合)として雇用されるため、雇用主がかわり無期転換とはなりません。しかし、グループ委託会社における若い世代は無期契約への転換があり得ます。組合として動向をチェックする必要があります。

③ 働きがいのある会社、労働条件の向上をめざして、JR東日本発足の理念「自主・自立」「お客さま志向」「地域密着」を達成するためには、働き甲斐のある職場・会社創り、自ら考え行動する社員づくりが必要となります。そのためには職場風土を良い物にし、風通しの良い職場にしなければなりません。それには、そこに働く社員一人ひとりの努力の積み重ねによって始めて実現するものと言えます。組合では労働条件の向上や制度改善、ワークライフバランス「仕事と生活の調和」の充実化や、60歳以降の働き方、正規・非正規運動者間の格差是正などの取り組みは、組合員から多くの問題が出されている。政府が進めている「働き方改革」に関する議論に注目し、特に「同一労働・同一賃金」は多く議論される事柄だと言えます。

私たちの声を

政策につなげる運動

私たちを取り巻く環境は厳しさを増す一方であり、急速に進む高齢化や人口減少、都市部への人口集中と地方過疎化、高速度道路網の整備等が、地方路線の利用者数減少に拍車をかけています。

私たちJR東日本は、その社会的使命からも真摯に向き合い、確実に対処していかなければなりません。働く者の視点から、鉄道をはじめとする交通全体の将来展望を切り拓いていくための方策を検討し、不断に追求していかなくてはなりません。

教宣活動

運動を活性化させ、絆



平成28年8月21日 笹川流れキャンプ

平成29年4月8日 新潟地本ボーリング大会



をより強固にするためには正確でタイムリーな情報の共有が必要です。さらにわかりやすく、面白くするための情報発信をめざして活動していきます。

私たちの主張、運動をJR東日本の多くの社員やJR東ユニオンに興味を持って潜在的な仲間に対して、さらに社外の多くの方々に伝える効果的な広報ツールとして、本部は「ホームページ」のタイムリーな更新とリンクの活用や色々のバージョンアップに努めてまいります。

また、取り巻く情勢の中で、多くの働き方改革

等に関わる用語が氾濫しています。社会情勢をタイムリーに理解するため用語の簡単な解説をホームページにアップするなどしていきます。

連帯活動

私たちは、JR連合の仲間と共に連合のめざす「働くことを軸とする安心社会」を目指して運動を進めて行くと共に、私たちが取り組む「民主化闘争」に理解を示すあらゆるみなさんと連帯して、私たちの求める社会を創造していきます。

ボランティア活動の取り組みについて、本年度も今日までの取り組みを

継続することを基本とし、以下のボランティア活動を進めることとします。

政治活動への取り組みについて、JR連合の「国会議員懇談会」「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に積極的に参加し、JR連合と連帯した政治活動に取り組みます。

イーストユニオン「国会議員懇談会」「地方議員団連絡会」の設置を目指します。

福利厚生 (省略)

財政の確立 (省略)

特別組合費 (省略)

当面の組織運営 (省略)



おかげさまで30周年

皆さんと歩んだ30周年。これからも交運共済と共に

交運共済は、本年4月1日に30周年を迎えます。

これもひとえに、加盟組合のご理解・ご協力と組合員の皆さまのおかげであります。

これまでの30年に感謝申し上げるとともに、さらなる発展を目指して参ります。

家族のために
仲間のために
ささえ愛。



みんなで暮らしをガード
交運共済